

# 受け継がれる男女共同の想い



## 家庭に参加することがあたりまえと思う

5月11日、町保健福祉センターで行われたペアレントサークル。子どもの出産を控えた夫婦が参加し、赤ちゃんの入浴方法を学んだり、「おもり」をお腹に巻きつけて妊婦になる体験をすることができます。緒方孝信さん・由香さん夫婦も第一子の誕生を控え、共に子どもを育て、親になることを学びに参加。ここには積極的に家事や育児に参加する夫婦の姿がありました。



緒方 孝信さん  
（小峯）

由香さん

「家庭の仕事で、これは男性の仕事とか、これは女性がするべきこと」という気持ちは全くありません。色んなことを自然と自分からやってみたい。子育てや家事など、家庭に進んで参加することがあたりまえのことだと思っています。妻と一緒に生活していくうえで、感謝の気持ちを伝えることが一番大切だと思うし、生まれてくる赤ちゃんも、自然に感謝できる子どもに育ってほしいです。

そう話しながら、孝信さんと由香さんは幸せそうな笑顔をみせてくれました。

## interview

### 男女共同参画は 今後の地域づくりの生命線



上益城郡男女共同参画社会推進懇話会  
とみざわのりこ  
会長 富澤 典子さん(上小谷)

矢嶋楯子先生は、幼少期から色々な経験をされ「なぜ女性だけが」と常に考えておられたと言います。後にご自身が教育者となり、女性の教育を世間に先駆けて始められました。

矢嶋先生の「あなたがたは聖書を持っていきます。だから自分で自分を治めなさい」という有名な言葉があります。

現在でも東京の「女子学院」でその教えが受け継がれているということから、どれほどの偉業を成し得た人か、うかがい知れます。

その基礎となる力は、

両親の厳しくも心豊かな家庭教育であり、女子教育の必要性和理解があったからこそだと思います。また、矢嶋家の地域への大きな貢献は、言うまでもありません。

男女共同参画とは、このような先人の思いもふまえ、地域生活の視点に立って、地域事業に取り組んでいくことも、大切な一つです。

元氣な地域づくりには、男女共同参画の実現が重要になってきます。私たちの益城町にとって、新たな価値の創造につながっていくことでしよう。